

## 「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	美濃加茂市	学校名	山之上小学校		
校長名	日比野 浩二	対象学年	全学年	人数	77人
項目  該当する項目1つ 以上に○を付ける	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	けやきのようにたくましい子 けんこうな子 やさしい心の子 きたえ学ぶ子				
活動のねらい	地域学校協働活動を核に、地域の方々と共に子供たちの学びを考えることを通して、子供たちが意欲的に地域について学ぶ機会を増やすと共に、地域の方に支えられていることを実感し、「ふるさと山之上」への愛着心や誇りをもち、進んで地域社会に貢献しようとする態度を育てるとともに、学校教育目標の具現に向けた方途の一つとする。				
<p>1. 子供たちのふるさと学習を地域と共につくり上げる</p> <p>(1) 総合的な学習の時間「大すき山之上」</p> <p>総合的な学習の時間「大すき山之上」は、ふるさとに関わることについて、山之上まちづくり協議会や学校運営協議会の皆様等、地域の方々に支えられながら全学年で学んでいる。地域の方々は、学びの場を提供してくださったり、講師をしてくださったりしている。そして、その支えにより、子供たちがより主体的に学ぶことができている。(尚、6年生は、社会科の歴史の学習と関わらせ、1月に地域の方を講師に招き、「戦時中の山之上」について学ぶ。)</p> <p>①【3年生：白隠禅師の学習】</p> <p>社会科「身近な地域」の学習では、地域の土地や昔から伝わる建物等について学ぶ。白隠禅師は、山之上の風土や文化に影響を与えた中興の祖である。白隠禅師についてみのかも文化の森で学び、白隠禅師が修行を行った座禅岩等のある、鬼飛山登山を行った。登山当日は、山之上まちづくり協議会の方々と一緒に登り、白隠禅師の山之上での暮らしの様子や功績について話を聞いた。また、登山途中では、この山に咲く特有の植物について説明を聴き、頂上付近から市内外の眺望を味わいながら地元の山の良さを味わった。座禅岩では、「この上に乗って修行していたの？すごい！」と遠い昔の偉人と同じ目線で景色を眺め、思いを馳せることができた。</p> <p>②【4年生：山之上富士の学習】</p> <p>今年度から、理科「季節と生き物」の学習とも関わらせ、白隠禅師が「普慈」と称え、崇敬の念を抱いていた山之上富士を地域の教育資源の一つとして、山之上まちづくり協議会、美濃加茂市自然史研究会の方々に講師を迎え、登山をしつつ白隠禅師と富士山の関わりや、植物や生き物について学習をしている。昔からふるさとの山を大切にしてきた地域の人々の思いを知り、ふるさとへの愛着を感じる事ができた。また、自然豊かな山之上富士にたくさんの生き物が生息していることを知り、自然を大切にしていきたいと願いをもつことができた。</p> <p>③【5年生：水素自動車の学習】</p> <p>社会科「自動車をつくる工業」の学習と関わらせ、中部国際自動車大学校副校長であり、山之上まちづくり協議会のメンバーでもある方を講師に招き、水素自動車についての学習を行った。実際に見たり聞いたりする中で、未来の地球のことを考えた、環境にやさしい水素自動車の重要性とともに現在の工業における将来性を学んだ。</p>					

#### ④【1・2年生：ローゼルの実の収穫の学習】

生活科「たのしいあきいっぱい」の学習と関わらせ、ぎふ清流里山公園内の畑で山之上まちづくり協議会が栽培しているローゼルの実の収穫を行った。実の採り方や種の取り方を山之上まちづくり協議会の皆さんから教わりながら、手際よく行うことができた。梨等の果実だけでなく新しい地域の特産として、ふるさとの秋を感じながら、楽しんで活動することができた。

##### (2) 学校の森活動

本校では、学校の西側にある森（県総合教育センター主催の研修講座においても会場として利用）で、自ら進んで考え、楽しみを見出す活動を通して、主体性を育むことを目的とした学習を行っている。昨年度より、学校運営協議会を主体として、地域の方々と下草刈り等の開発を進め、より活動的なスペースをつくっている。これは、市の里山千年構想の一つ、「木育」であり、里山保育を進める学校近くのこども園との連携、交流を推進するものでもある。これにより、園児が学校の森に来て活動している。岐阜県森林文化アカデミーより講師を招き、学校運営協議会の協力のもと、今年度は、授業参観を森で学校行事として行った。自然の中で自分の「やりたい」を見つけ、生き生きと活動する子供たちと一緒に、森での活動を楽しむ保護者の姿がたくさんあった。

## 2. 地域への発信

### (1) サロンでの交流

山之上まちづくり協議会は、地域で「サロン」と称して、喫茶店形式の大人たちの寄合の場を月に1回運営している。児童がそのサロン会場に行き、学習の成果を発表する場として利活用している。2年生は、生活科の学習で、花の苗を育てて、サロンで販売を行った。サロンに集まった地域の方々とコミュニケーションをとりながら、次々と花の苗を売ることができた。5年生は、学校田で収穫したお米をサロンで販売するため、前月のサロンで米販売のチラシを配り、お世話になった地域の方々に自分たちの作ったお米を食べてもらいたいという願いを伝えた。サロンでの交流は、小規模校故子供たちが関わる人が限定的になるところ、多くの方と関わる中で地域社会とよりよく関わる学びの場であり、進学していく大規模の中学校の中で自分の良さを発揮するための自信をもつ一つの機会となっている。

### (2) ふるさと学習発表会

上記に記載した学習や活動の他にも、本校では多くの「ふるさと学習」を行っている。これらは、学校運営協議会の設立をきっかけとして始まったものも多く、草集め活動や山之上読み聞かせ（トトロ読み聞かせ）等、学習以外にも一緒に活動する場が広がっている。多くの地域からの学びを還元する意味で、地域についての学びや地域への思いを、保護者や地域の方々の前で発表する「ふるさと学習発表会」を1月24日（土）に計画している。この発表会は、この日に行われる町生涯学習委員会主催の「山之上ふるさと祭り」の演目の一つである。子供たちは、多くの人前で学習したことをアウトプットする機会をもつことで、発表の仕方を工夫したり、大きな声でわかりやすく伝えたりしようと取り組む。そして、多くの方々に拍手をもらい、褒められる充実感、それは、地域への愛着や誇りを得ることとなる。また、小規模校の子供たちにとって、このような機会は、大規模校である中学校に入学した時にも、物怖じせず、自分自身の良さを発揮できることを目指す、本校の教育目標「けやきのようにたくましい子」の育成に結びついている。加えて、特に自身の子供や孫が小学校に在籍していない地域の方々にとって、このような機会に、小学校に足を運び、子供たちの活動する姿を目にすることは、小学校を身近に感じ、地域の子供たちや自分が住んでいる地域を愛しむ気持ちを深めることにつながり、より一層子供たちと地域の方々との関りが深まることが期待できる。